



母の健康

わが子の生活の一切に行き届いてゆくに、母のつとめは容易ならぬもので、それが、それには、何よりも先づその健康がもとでせう。たとひ子どもの世話といふばかりでなく、その心の教育をかたよりなくしてゆくには、母は疲れを知らない健康をもつてゐなくては出来兼ねませう。わけても、わが子の氣もちを楽しくし、勇ましくし、引きあげてゆくのに、母の健康な顔色は、何ものにもかへ難い程の大きな力をもつものでせう。

子どもの健康、それはいつも強く叫ばれてゐることで、母の健康、これこ

昭和十五年
六月

そ先づ叫び度いことです。子どもの健康の爲の缺くことの出来ない要件として、子どもの健康は皆さんが全力を捧げて進めてゆきます。あなたの健康は、御自身で護るほかありません。それも一刻の怠りもなまげも出来ない母のつとめの間に護らなければなりません。自ら護るといふと自分中心のやうにも聞えますが、いふまでもなく、あなたの健康はあなたの爲ではありません。お子さんの爲です。國のみ寶の爲です。氣をつけることです。自重すべきことです。

母のこよみ

雨と子ども

○子どもは雨を苦にしません。雨なんかおそれさせてはなりません。着物のぬれることなんか氣にするやうな元氣のないことではいけません。しかしそれは子どもの方のこと、ぬれた着物やからだをそのままにして置いてはなりません。雨具をよく行届かせるのは親の役目です。その雨具に事を缺き勝ちな此頃、そこに氣を配るのは親の一層の役目でせう。

○それにしても雨に足を止められた子どもを、天氣の時と同じやうに楽しませるのは一と工夫です。おはなしも澤山用意しておきませう。繪本も新らしいのをそろへませう。が、そんなじつと坐つてゐることはかりでなく、運動不足にならないやうにしてやらなければなりません。多少のどたばた位叱つてはいけません。飴で雨おさへなんか尙ほいけません。